

# 謹而諒中間の新年を迎ふ

先帝陛下遂に御崩御ましまし、吾等八千萬同胞は眞に衰傷悲嘆の極みである。

皇太子殿下には直ちに踐祚を給ひて、茲に至誠至仁の新帝を戴き、新光を迎え得た事は悲しみの中にも幸福である。

光は歡喜であり、光は力である、そして光は希望である。反對に暗黒は絶望であり、一切のものゝ寂滅である。若し人間生活から此光を取り去つたならば、跡に残る何物もないであらう。其意味に於て吾人は東天に燦爛たる光を求め、殊に年頭の新光を求める。

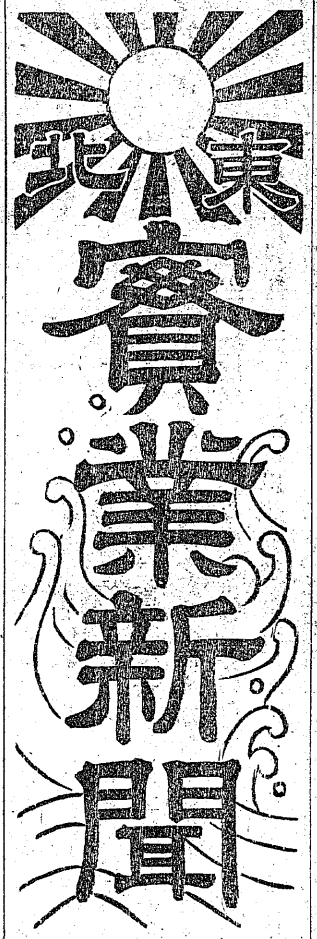
新しい光は、新しい希望の象徴である如く、また新しい生への一歩でもある。明くれば大正十五年、五穀豊穡の秋を閲して歳晚には至つたものゝ、一般財界の活動は未だ其完きを得なかつた。吾人の物質的社會生活は、五穀の豊穡と財界の活躍によつて、甫めて充實さるゝのである。故に吾人は其活況を期待するところが、すてに久しい。大正十五年はかくして暮れた去りながら吾々は次の新光を求める。次ぎの新生を追求せずんば熄まない。

新帝を戴ける昭和の新年は吾等國民として光輝ある希望の多い改期である。改元の二年が未知數であるにもせよ、人はそれへの希望に於て生きねばならぬ。然らば幸にして社會生活の物質的方面に改善の跡が見られたこと、その精神的方面は、如何にあらうか之れを世界の傾向に就て見れば昨年来歐米諸國に於ては國際的提携の機運の勃然たるものがある。

曰く財政上の大トラスト、曰く大陸製網協定、曰く何、曰く何と、曰くウイルソンの所謂國際聯盟十四ヶ條の精神が今日各國の實務家の間に蘇つたのは、洵に注目すべき現象と云はねばならぬ。現樣式なのである。人類の精神的社會生活に於ける眞個の体現。

吾々は、斯くの如き機運と傾向とに對して自覺し覺醒すること共に、是れを以て昭和新年の一歩を踏み出さうではないか。時空に對して區劃の行はるゝ時は、人の心も區劃さるる時である。倦怠から新生へ沈滞から行動へ。人々よ、いざ出發の用意は出來たか。

社長 吉村白水



発行日 五月十五日、廿五日  
 定税 共價 一部十錢 一月廿錢  
 郵代 増 半ヶ年二圓四錢 一ヶ月廿錢  
 廣告料 特別欄十二話一行一圓  
 福島石城郡平田町三六 活版所  
 印刷所 〇 活版所  
 發行所 東北實業新聞社  
 編輯人 遠藤林藏

和久井屋 漆器店  
 大黒屋 勝次商店

關内油店  
 平町二丁目 電話一六番

栗野屋酒店  
 平町大工町 電話四一〇番

茗荷屋貸衣裳店  
 あかや洋服店  
 平町二丁目

## 諒閣中年賀欠禮

### カリリ會

(順序不同)

- 酒井醫院 南町 電話五五番
- 大森醫院 南町 電話二五八番
- 矢吹醫院 古鍛冶町 電話二六六番
- 鈴木眼科醫院 研町 電話四三八番
- 吉田眼科醫院 紺屋町 電話六八番
- 藤沼醫院 紺屋町 電話五〇七番
- 根本醫院 南町 電話三四番
- 赤心堂病院 田町 電話四七五番
- 金成醫院 鎌田町 電話三五八番
- 大和田耳鼻喉科醫院 南町 電話一七〇番
- 星眼科醫院 南町 電話四七一番

### 石城銀行組合


- 磐城銀行 平三丁目
- 磐越銀行 南二丁目
- 磐城實業銀行 南四丁目
- 磐東銀行 植田町
- 四倉銀行 四倉町
- 第七十七銀行平支店 三丁目
- 第七十七銀行平支店 二丁目
- 農工銀行平支店 四丁目
- 常盤銀行植田出張所 植田町

### 堀部留造

双葉郡久の濱町

### 土木建築請負 合資工業榮商會

佐々木健一郎

磐城平町五丁目  
 和洋銅鐵 金物問屋  
  
 釜屋商店  
 電話園九番 一三九番

磐城平町四丁目



産業界の今後

藤山雷太氏談

昨年中の政界財界産業界を保つことが出来るのであつたのは...

濟的發表をしなければならぬのである...

糧原料に極めて乏しいのでんかといふに...

美しい洋生菓子 シェウクリーム...

柴田書店

目丁四町平 番四三二話電

諒閣中に付賀詞 遠慮仕候

住吉屋支店

磐越銀行

中野甲藏 瀧澤俊平

平料理屋組合 四倉銀行會社組合

打綿類布團製造卸問屋 吉村安次郎商店

- 平藝妓屋組合 玉川 電話一八六番...

遠藤市松

実戸屋佐平

山野邊東次郎

多田井笑次郎

藤市

魚問屋

藥劑師



# 遠藤市松

魚問屋  
**実戸屋佐平**  
 平町四丁目 電話二〇五番

藥齊師  
**山野邊東次郎**  
 平町二丁目 角

有價證券賣買(質店)  
**多田井笑次郎**  
 平町大工  
**百澤商店**  
 平町四丁目

縣下隨一の稱ある

## 植田署長官新築落成

植田警察署では從來署長官防組頭阪本龜太郎氏の精神含の設備なく借家住であつた努力に外ならない植田消たが植田分署が本署に昇格防組員が熱心の地固め献身萬般に就て面目一新せるを的出動によつて斯くも立派期として署長官舎新築を計な官舎が出来上つた事は地書昨年十一月十二日起工建方の誇りである建築請負者築費三千二百圓を投じて結は小野定治氏で植田職工組構優美透光通風申分な理合員約二十名は日夜献身的想的の建築成り竣工式を盛努力を以て仕上げられたの大に行ふ筈であつたが御大である材料は森三藏氏の義爽に付御遠慮する事となり狭的納入による、家根の赤關係者のみにて落成式を行瓦は大月山下セメント瓦つた位置は警察署の東北に工場赤津島治氏及小宅金四當る裏の隣接地を固め建坪郎氏の製品にして地方の優二十六坪五合、只に建築の秀たる逸品である。美ばかりでなく間取りの案演武場も約三百圓の豫算を配材料の撰擇に注意せられた以て消防組員の手にて目下け豫想以上の建築物を見た改築中である。譯である南向の廊下は檜の擊劍道具は十一組の設備あ香床しく兩戸は内に硝子戸り一齋に廿二人の立合の出をたて二重の引戸で洗面所來る事は餘りに珍らしい縣湯殿の設備も完全に眞に住下に稀である、之も横山署心地好き理想建築である、長赴任以來寄附を以て成れ之も要するに横山署長の徳の特筆すべき事である。望のなせる結果であるが消

### 熱狂的歡迎の豫約出版物

比類なき磐城出版界の霸王

## 磐城信用録發行

著者吉村白水氏は曩に磐城するものである。紳士録を發行して地方出版一本書は各人指針の一大公界に一大光彩を放つた今回又内務省許可を受け磐城信用録なる一大紀念書を刊行する事となり一般人士より熱狂的の歡迎に呼ばれて居る、本書は各階級を網羅して恰も掌上を指すが如く磐城の精華たる事業と人物を紹介して事業家の便を圖り地方の向上發達に資せんご

諒闇中に付賀詞  
 遠慮仕候

土木請負業

## 中山吉之助

石城郡川部村字小川

高久村役場

村長 小野 淺治  
 助役 本馬 武

酒造元 鈴木喜太郎  
 石城郡高久村

植田町大字植田月山下  
 セメント瓦工業所

赤津島 治  
 小宅金四郎

鹽屋  
 山崎合名會社  
 電話 營業部 一〇番  
 醸造部 二七番

電機機械  
**磐城工業商會**  
 中村佐治助  
 常盤線平町四丁目 電話一一八  
 出張所 青森縣三戸郡小中野町新町

湯本信用無盡株式會社  
 電話 四七番

入山採炭株式會社

磐城無盡商會  
 植田町

東部電力株式會社  
 平營業所  
 所長 武田精一

高橋 龜松  
 平白銀町 電話六三八番

磐城建物株式會社  
 電話五一八番

株式取引所 駒場四郎  
 平町町 電話四六五番

關内藥店  
 藥劑師 關内榮助  
 平町四丁目 電話四〇番

平鎌田町  
**草野染工場**  
 電話三四八番

星製藥磐城配給所  
 專務取締役 駒木根忠三

平理髮組組合

平材木商業組合

平運輸株式會社

小原長英  
 七十七銀行平支店長

河西八十治  
 農工銀行平支店長

合資會社  
**三井吳服店**  
 平町三丁目 電話三八番

材木商  
**佐藤福太郎**  
 平町新川町 電話三三五番

藤田屋旅館  
 平町十五丁目 電話三六七

謹而諒閣中新年の迎ふ

醫師 鈴木省吾

石城郡上野村

磐城銀行出張所

柴田祥平

茨城平潟町

櫻村義雄

茨城大津町

山田村役場

安島重三郎

秋山藏之助

小野未吉

佐川朗

下山田嘉一郎

秋山清太郎

蛭田兼吉

大平又一

蛭田兼吉 秋山貞竹

大平又一 鈴木秀之助

植田水電力氣株式會社 植田水電力氣株式會社 植田水電力氣株式會社

山田屋

旅館本店 料理別館

醬油釀造元

坂本龜太郎

植田藝妓組合

醬油釀造

大平喜治

安島重三郎

植田物産株式會社

山崎登

電話植田三二番

待合浮世

瀧秀夫

和料理

木炭問屋 渡邊重三郎

馬上守一 鷺清昇

馬上誠一 日渡正一

片岡醫院

佐藤松之助

藤田淺之助

森合芳男

金成金三 渡邊德之助

電力精麥社

植田町收入役 山際平太郎

米雜穀卸商

植田町助役 小野忠衛 金澤洋服店

和久井屋漆器店

大黒屋勝次商店

關内油店

栗野屋酒店

茗荷屋貸衣裳店

あかや洋服店